

第3回 最上小国川流域環境保全協議会

2. 環境調査計画について

2.1 猛禽類調査

(1) 目的

生態系の上位性の注目種として抽出したクマタカの行動圏の内部構造解析に必要なデータを蓄積するため、定点観察を行う。

(2) 調査方法

調査項目	クマタカをはじめとする希少猛禽類5種 既往調査で調査地域で繁殖が確認されている希少猛禽類 ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、サシバ、クマタカ
調査地域	最上小国川ダム計画地周辺
調査地点	任意の定点4地点
調査時期 調査頻度	1回あたり4日間の調査を5回 6月:クマタカ(大明神ペア)の繁殖状況確認 ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、サシバの繁殖状況確認 クマタカ(末沢ペア)の生息状況確認 7月:クマタカ(大明神ペア)の繁殖状況確認 ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、サシバの繁殖状況確認 クマタカ(末沢ペア)の生息状況確認 12月:クマタカ(大明神ペア、末沢ペア)の繁殖期の行動確認 2月:クマタカ(大明神ペア、末沢ペア)の繁殖期の行動確認 3月:クマタカ(大明神ペア、末沢ペア)の繁殖期の行動確認

調査の方法

定点からの目視調査を主体として実施し、必要に応じて各種の繁殖行動に影響を与えないよう(巣外育雛期等)、営巣木を特定するために林内踏査を行う。

定点観察は、8～10の双眼鏡、20～60倍の望遠鏡を用いて目視するとともに、コリメート撮影を行い、確認個体の映像を記録し、個体識別に努める。



(3)これまでの調査結果

生態系(上位性)

クマタカの繁殖状況

上位性の対象種となるクマタカについては、2ペアが確認され、その繁殖状況は次の通りであった。

クマタカの繁殖状況

	H15	H16	H17	H18	H19	H20
Aペア	▲	×	×	●	×	●
Bペア	×	●	×	●	×	×

●：繁殖成功、▲：繁殖途中失敗、×：繁殖せず

2008/09/17



Aペア♂

2008/08/19



Aペア♀

Aペア幼鳥

2008/09/09



Aペア幼鳥

2008/11/26



貴重種の保全の観点から、配布資料には
添付しませんでした。

ご了解下さい。

平成14～19年度
クマタカ全飛翔図

貴重種の保全の観点から、配布資料には
添付しませんでした。

ご了解下さい。

平成20年度
クマタカ全飛翔図

2.2 付着藻類調査

(1) 目的

小国川全域に分布するアユの餌となる付着藻類の生育状況、出水時の剥離更新状況を把握し、最上小国川ダム建設事業における影響予測検討の基礎資料とする。

(2) 調査方法

調査項目	付着藻類 アユのはみ跡
調査地域 調査地点	最上小国川ダム計画地周辺 末沢川合流点、下白川橋、長沢橋下流、明神川、白川の5地点
調査時期 調査頻度	平常時(定期)調査:計4回 7月:解禁直後 8月:なわばり形成期 9月:なわばり形成期 10月:降下時期 洪水後調査:2出水(計4回) 洪水直後(流量減少後) 1週間後(2ヶ所)
分析項目	現地で採取したサンプルは、光学顕微鏡を用いて種の同定や量の分析等、下記の分析を行う。 同定分析:確認種、種数、細胞数、優占種等 物理化学分析:乾燥重量、強熱減量、クロフィル、フェオフィチン

調査の方法

付着藻類調査：各調査地点において、河川形態の異なる2箇所（早瀬と平瀬）で採取を行う。採取は定量採取とし、藻類の付着した拳大の石礫に5cm×5cm(25cm²)の方形枠をあてがい、ブラシで剥ぎ取る。

はみ跡調査：はみ跡調査は、1mの方形枠に10cm間隔の面格子を設け、格子の交点下に存在する礫に付着するはみ跡を箱めがね等を用いて記録する。



2.3 H21年度の調査工程案

項目 \ 月		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
猛禽類調査												
			■	■					■		■	■
			・クマタカ繁殖状況確認 ・餌運搬の有無等確認 ・サシバ、ハチクマ等の確認						・H22繁殖の可能性確認 ・求愛行動、ディスプレイ ・巣材運搬等		・H22繁殖の可能性確認 ・求愛行動、ディスプレイ ・交尾、誇示止まり ・巣材運搬	
付着藻類調査	定期			■	■	■	■					
				・解禁直後	・成育期	・成育期	・降下期					
	出水後			←-----→								
				出水、直後、1週間後、適宜実施								
	はみ跡			■	■	■	■					
				・遡上期	・なわばり形成期	・なわばり形成期	・降下期					
環境保全協議会		■					■				■	

2. 環境調査計画について 以上